

八丈島 水産だより

8月号

2006



ハイビスカス



底土海水浴場

長かった梅雨も終わり、観光や帰省で八丈島に人が一番増える、にぎやかな季節がやってきました。八丈(三根地区)では7日に、お墓に七夕かざりをするならわしがあり、夜明け前からお墓参りの人でにぎわいます。また、11日には花火大会も行なわれます。この時期、海もおだやかで、多くの人が海水浴やダイビングで楽しめます。漁業では、底魚一本づりやムロアジ漁が本格的に行なわれます。

みなと感謝祭はおおにぎわい

7月17日に[みなと感謝祭]が八重根漁港で行なわれました。鮮魚直売や魚料理などの試食、八丈太鼓の実演などがあり、多くの人でにぎわいました。特に鮮魚の販売では、新鮮な地元のカツオやハマダイなどが安く手に入るとあって、開始してすぐ売りきれてしまうほどの人気でした。カジキの丸焼きなど、漁師さんや漁協女性部の手づくり料理が振舞われました。海がしけていたため、クルージングは中止となりましたが、約4千人が訪れ、海の日をの休日を楽しみました。



いよいよムロアジ漁始まる！

クサヤの原料などに利用されるムロアジの棒受け網漁が8月から始まります。昨年はしけなどの理由で出漁日数が一昨年より2割少なく、漁があまりよくありませんでした。島しょ農林水産総合センターの事前調査では、昨年と比べ小型のムロアジが多いため、クサヤ加工業者さんには良いようです。ムロアジは学校給食などとしての利用も広がっているため、12月までの漁期中、安定した漁獲があることを期待しています。



トコブシ漁解禁

今年トコブシ漁が7月13日に三根地区で解禁されました。

近年、トコブシの餌となるテングサなどの海藻が海の水温が高いことなどにより減ってしまい、トコブシの獲れる量も少なくなっています。このため、漁協では毎年トコブシの稚貝を放流したり、獲ってはいけない場所や期間を設けるなどの取組みを続けています。

今年獲れたトコブシは、重さで約25% (島しょ農林水産総合センター調べ、7月20日現在) が、以前放流したトコブシでした。天然のトコブシも少なくなっているため、放流などによる資源保護の取組みが重要となっています。



フクトコブシ
上が天然の貝、下が放流して大きくなった貝。
放流貝は、餌の関係で貝殻が緑色になっています。